

整形外科疾患

特発性大腿骨頭壊死症

1. 概要

股関節を構成している大腿骨頭が虚血により壊死に陥り発生する疾患です（化膿するのとは違います）。壊死した大腿骨頭がつぶれる（圧潰）と、疼痛を生じ、日常生活機能が損なわれます。壊死に陥る原因は不明ですが、ステロイド投与、アルコール多飲などが危険因子として考えられています

2. 疫学

年間発生数は、2500-3000 人程度と推測されています。
（10 万人あたり、2.51 人の発生率と報告されています）

3. 原因

詳細な原因は未だ不明ですが、ステロイド投与およびアルコール多飲により骨壊死発生のリスクが上昇することがわかっています。

また、動物モデルを用いた基礎的研究により、最近では、骨壊死発生の予防の可能性も示唆されてきています。現在、予防法開発にむけた研究が多く行われています。

4. 症状

股関節部の痛み、歩行障害、可動域制限を来します。

5. 合併症

膝関節、肩関節、足関節など他の関節に発生することもあります。

6. 治療法

若年者の場合は、壊死に陥った範囲に応じて、関節温存を目的とした各種の骨切り術があります。壊死範囲が広範な場合は人工関節置換術があります。

7. 研究班

特発性大腿骨頭壊死症の診断・治療・予防法の開発を目的とした全国学際的研究

整形外科疾患

特発性ステロイド性骨壊死症

1. 概要

基礎疾患の治療に用いたステロイド剤により、骨への血流障害をきたし、骨壊死をきたします。化膿して壊死するのとは異なります。最も多く発生する部位は、股関節、膝関節です。

2. 疫学

発生数は、1200-1500 人程度と推測されています。

3. 原因

詳細な原因は不明ですが、基礎疾患の病態と相まって、ステロイド剤による凝固異常、脂質代謝異常、酸化ストレスなどの各種複合的要因により発生する可能性が示唆されています。また、動物モデルを用いた研究にステロイド性骨壊死の発生予防の可能性も示唆されています。

4. 症状

股関節であれば、股関節痛、歩行障害、可動域制限などがあり、膝や肩関節でも同様に疼痛、可動域制限をきたします。骨壊死の発生した部位に応じた症状をきたすのが特徴です。

5. 合併症

ステロイド剤そのものによる副作用（骨粗鬆症など）に加え、骨壊死による関節の拘縮や痛みがあります。

6. 治療法

各種骨切り術や人工関節置換術を、年齢、壊死範囲に応じて選択します。

7. 研究班

特発性大腿骨頭壊死症の診断・治療・予防法の開発を目的とした全国学際的研究